

No.9 / 2004.10

ターナーにおけるケルト的なもの

—トポス(地場)の歴史的表現から崇高および表現主義の様式へ—

津田 礼子

The Celtic in Turner

— from the historical Expression of Topos (place)

to the style of Sublime and Expressionism—

Reiko Tsuda

このテーマは「ターナーの絵画におけるケルト的なもの スケッチと「場」の意味」(活水女子大学・短期大学活水論文集第40号、1997.3.31.)における考察を引き続き展開したものである。前掲論文では、ターナーの絵画におけるケルト的な Celtic 要素について解明するための第一歩として、主にイングランド、ウェールズ、スコットランドでのターナーの足跡を辿り、これらのスケッチと版画集、挿絵、そして水彩画、油彩画との相関について考察した。本論考では、さらに場所と表現との関係についての検証を進め、ピクチャレスクや地誌的な風景から崇高な風景へ、最後には表現的な風景へと表現的な変化を遂げていった過程について、トポス(地場)と文学との関係という視点から考察した。

I章では名所絵的なヴェドゥータ Vedula、ピクチャレスクな景観集 Picturesque Views の制作にのたために多くのスケッチを行ったことが、ターナーにイングランド、ウェールズ、スコットランドという自国内の自然の風景のもつ特殊な意味や、それらの風景に宿る崇高な雰囲気を見させる大きな契機になったという点について述べる。

II章で『研鑽の書 Liber Studiorum』と『小さな研鑽の書 Little Liber』との関係について述べる。

III章では歴史的・民族的な「場」の発見 — 文学との関係について述べ、それらの場が文学において歴史的・民族的な場として描かれていることをトーマス・グレイ Thomas Gray、ミルトン Milton、トムソン Thomson、スコット Scott 等の詩・小説などとの関係において例示する。

IV章では A.Wilton の説に依拠し、一般的な崇高を越え、より表現的な、ターナー風の崇高 Turnerian Sublime へと発展していったみる立場から地誌的な景観から崇高の表象への展開について述べる。

またここで、J. Gage の説を引用し、「太陽」、「光」の表現と意味の変化について例示し、寓意的

allegorical、象徴的、symbolical な意味を持つモチーフをターナーがどのように扱い、それらがターナーの表現上の変化にどのように影響していったのかに触れる。

最後に、ウェールズ、イングランド北部とニューミナス、スコットランドとオシアニズムに言及し、ターナーの絵画に描かれた風景の特質が崇高な要素、表現主義的な要素をもち、それらがイングランド、ウェールズ、スコットランドの特有の場所から形成され、そして、これらの要素はロマン主義期に特有のものを含み、また、極めて北方ヨーロッパ的なものであり、それらの中に潜在するケルト的な要素を見出し得ると結ぶ。

1110 字